

エフゲニー・ザラフィアンツ & 丸山貴菜

Evgeny Zarafiants & Takana Maruyama

Joint Recital



2017. 7. 1 [Sat]

松本市音楽文化ホール 主ホール

The Harmony Hall

◆フォーレ：ファンタジー 作品79

Gabriel Fauré : Fantasy Op.79

Andantino - Allegro

◆サンカン：ソナチネ

Pierre Sancan : Sonatine pour Flûte et Piano

Moderato - Andante espressivo - Animé

◆ムチンスキー：フルート・ソナタ 作品14

Robert Muczynski : Sonata for Flute and Piano Op.14

I. Allegro deciso

II. Scherzo:Vivace

III. Andante

IV. Allegro con moto

◆ショパン：スケルツォ 第1番 短調 作品20

第2番 変ロ短調 作品31

Frédéric Chopin : Scherzo No.1 h moll Op.20

Presto con fuoco - Molto Più lento - Tempo I

No.2 b moll Op.31

Presto

* * * 休 憩 Intermission * * *

◆ラフマニノフ：ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 作品36

Sergei Rachmaninov : Piano Sonata No.2 b moll Op.36

I. Allegro agitato

II. Non Allegro - Lento

III. L' istesso tempo - Allegro molto

◆プロコフィエフ：フルート・ソナタ ニ長調 作品94

Sergei Prokofiev : Sonata for Flute and Piano D dur Op.94

I. Moderato

II. Scherzo:Presto

III. Andante

IV. Allegro con brio

Program Notes

◆フォーレ：ファンタジー（幻想曲）作品79

フォーレ（1845-1924）がパリ音楽院の教授をしていたときに、1898年同音楽院の卒業試験コンクールのために書かれた課題曲。前半部分は、叙情的な美しいメロディーが流れ、後半は躍動感溢れる軽やかなパッセージが散りばめられ、その対比が鮮やかな幻想曲。（丸山貴菜）

◆サンカン：ソナチネ

サンカン（1916–2008）がパリ音楽院で教鞭をとっていた第二次世界大戦直後、1946年の同音楽院卒業コンクール課題曲のために書かれた。三部構成になっており、水の流れるような繊細な音楽の冒頭、穏やかな旋律からカデンツァを挟み、次第にめまぐるしく展開していく。近年では、コンクールの課題曲として取り上げられることも多く、私自身も初めて演奏したのは高校生のコンクールの時で、挑戦の曲だったのを思い出します。（丸山貴菜）

◆ムチンスキー：フルート・ソナタ 作品14

ムチンスキー（1929–2010）はシカゴで生まれたアメリカの作曲家。1961年に作曲されたこの曲は、ジャズの雰囲気が高い、スピード感に溢れ、フルートとピアノの絶妙な掛け合いがスリリングな作品。洗練されたリズム感と確かな演奏技術が求められ、とても人気な曲。聴いているだけで気持ちが高揚し、是非一度は取り上げてみたいと思い、選曲しました。（丸山貴菜）

◆ショパン：スケルツォ 第1番 変ロ短調 作品20， 第2番 変ロ短調 作品31

ピアノを弾く者すべてのおこがれであるショパン（1810–49）！ショパンの音楽の持つ叙情性の中で、スケルツォの存在は少し特殊と言えるが、第1番は彼が20歳の1830年、祖国ワルシャワを後にしてウィーンに滞在しているときに書き始め、その後パリに移ってから翌年に完成させている。若きショパンの情熱に満ちた傑作と言える。第2番は1937年、知的で芸術の才にあふれたマリア・ヴォジンスカと恋に落ち、プロポーズも受け入れられて幸せに満ちた時期に書かれ、スケルツォの中で一番人気の曲。

◆ラフマニノフ：ピアノ・ソナタ 第2番 変ロ短調 作品36

ラフマニノフ（1873–1943）は、40歳となって既に創作力は開花し、名声も世界に広がっていた時期の1913年、ローマで過ごした。敬愛するチャイコフスキーがかつて住んだことがあったアパートを借りて家族とともに住み、このピアノ・ソナタ第2番と合唱交響曲《鐘》という大曲二曲が書き始められたのだった。この作品は3つの楽章から成るが、切れ目なしに演奏され、第1楽章の冒頭に提示される循環主題が第2楽章と第3楽章にも現れて、作品全体の統一感を強めている。完成から18年も経った1931年に、彼自身が大幅に改訂した縮小版を作り、本日は（一般的に演奏される）改訂版の方が演奏される。

◆プロコフィエフ：フルート・ソナタ ニ長調 作品94

プロコフィエフ（1891–1953）は帝政時代のロシアに生まれたが、1917年の革命の混乱の中で祖国を離れることを決め、翌年日本経由でアメリカへ亡命し、さらに1933年に祖国に帰郷した。第二次世界大戦中の1942年~44年にかけてこのソナタは作曲されたが、後にヴァイオリンソナタにも改編され、『ヴァイオリンソナタ第二番』としても有名。この時期は最も円熟した創作期にあたり、数々の名作を生み出した。全4楽章からなり、美しい旋律と近代的な和声と躍動感をもったフルートのための貴重な一曲。そして管楽器奏者にとって体力も要する大曲である。学生時代に初めてこの曲をコンサートで聴いた時、すぐに心を奪われました。私も演奏してみたいと思い、すぐに楽譜を買いに走ったのを思い出します。本日最後の曲として演奏いたします。（丸山貴菜）



1959年ロシア生まれ。オルスク音楽院およびグリーンカ音楽院・大学院を首席で卒業し、全ロシアコンクール、ラフマニノフ・コンクール等で入賞するが、ソ連共産主義体制の中では不遇で、ほとんど演奏の機会はなかったし国外に出る機会も決して与えられなかった。ソ連崩壊後、1993年のポゴレリッチ国際コンクールで第2位となった以降、「外」での活動が可能となって拠点をクロアチア共和国に移して国際的な演奏活動を行うようになる。

オーケストラとの共演、室内楽の分野での演奏、ソロ活動などその活躍の場は多彩だが、常に非常に個性的で表情豊かで、叙情溢れるピアノズムの世界を展開している。自己主張のはっきりした演奏である。レコーディングも

活発に行って多数リリースしているが、『レコード芸術 (月刊誌)』では毎回「特選盤」として高い評価を受けているし、また特にスクリャーピンの前奏曲全集の中の「前奏曲第1集」は、イギリス・グラモフォン誌の『月間ベスト10』に選ばれるなど、常に注目を浴びている。

2005年の『21世紀の名演奏家事典』(音楽の友社)では、「世界の注目されるピアニスト70人」のひとりとして名が挙げられている。

現在は日本在住で、愛知県立芸術大学客員教授として学生の指導にあたり、情熱的な彼のレッスンは学生たちの大人気の的となっている。昨年5月に愛知芸術劇場で行われた同大学創立50周年の記念コンサートでは、ラフマニノフのピアノコンチェルト第2番を演奏。

丸山 貴菜 / フルート *Takana Maruyama / Flute*

松本市生まれ。東京音楽大学卒業。同大学院科目等履修修了。同大学卒業演奏会、長野県新人演奏会出演。第32回フルートデビューリサイタル(ルーテル市ヶ谷ホール)に出演。第7回クラシック音楽コンクール全国大会 審査員特別賞受賞。第51回全日本学生音楽コンクール東京大会 中学の部第2位。第54回全日本学生音楽コンクール東京大会 高校の部第3位。第15回びわ湖国際フルートコンクール入選。

2008年と2014年に、ザ・ハーモニーホール(小)にてソロリサイタルを開催。A.ニコレ、E.パコ 各氏等の公開マスタークラスを受講。

これまでにフルートを居石ひとみ、中野富雄、中野真理各氏に師事。現在、ソロ、アンサンブル、室内楽等で演奏活動を行っている。



この昼下がりのコンサートに寄せて

円熟の絶頂期にあるロシア出身の大ピアニストに、松本出身の若きフルーティストが果敢に挑む ジョイント・コンサートです。

ピアニストの《超》個性豊かな音楽を、どのように若いフルーティストが受け止めて「互角に戦えるか」、スリリングですが、とっても楽しみです。

微かな震えるようなピアノニッシモから超パワフルなフォルティッシモへ、悠然としたアダージョ から超絶のプレスティッシモへ、と感情の赴くまま変幻自在に紡ぎ出すザラフィアンの響きは、こんなに表現豊かなピアノの音ってあるのか!と聴く者を感動させます。「演奏者の個性が明確に表せられないなら演奏する意味はない」というのが彼の持論です。

一方、丸山貴菜は、一度聴いたら印象づけられる、その天性の柔らかい音色を最大限に活かして、デリケートで、暖かな響きの、フルート特有の情緒的な世界を華やかに創りだします。

その二つの響きが溶け合うことでどのような感性世界が立ち現れてくるのか、定評のあるザ・ハーモニーホールの音響空間でぜひ聴いていただきたい、と思います。

特にロシア的感性をみなぎらせるザラフィアンの《ロシアもの》はデモーニッシュですらあります。今日のプログラム後半では《ロシアもの》が二曲演奏されますが、ラフマニノフのピアノ・ソナタ第2番では、思う存分、彼ならではの個性が発揮されるでしょうし、またプロコフィエフのフルート・ソナタでは、フルーティストが彼のロシア的感性をいかにとらえて、かつ自分のものとして『共に』表現するか、大いに期待したいところです。

(船津恵美子)





The Muramatsu
flute

since 1923

理想の配合バランス。
究極の信頼性。
ザ・ゴールド・オブ・ゴールド。

HANDMADE

14K.GOLD

ドゥローン・トーンホール

HANDMADE

14K.GOLD-SR

ソルダード・トーンホール

フルートを愛する人に、愛されるフルートを。

muramatsu

総発売元

村松楽器販売株式会社

東京都新宿区西新宿 8-11-1 〒160-0023
Phone 03-3367-6000 Fax 03-3369-1550

大阪市淀川区西宮原2-1-3 〒532-0004
Phone 06-6394-6000 Fax 06-6394-5777

名古屋市千種区今池 5-1-5 〒464-0850
Phone 052-733-8822 Fax 052-733-5471

横浜市西区北幸 2-4-3 〒220-0004
Phone 045-328-4181 Fax 045-328-4182

<http://www.muramatsuflyte.com>